

平成8年度大津市合流改善調査

全体期間

1996.12～1999.3

(目的)

大津市単独公共下水道は、皇子山、大津、膳所、晴嵐の4排水区により構成され、平成9年4月における下水道普及率は94.2%に達している。4排水区の排水系統は主に、山側から琵琶湖に向け埋設された管渠と湖岸にある遮集幹線によって構成され、その流末の大津終末処理場へ導かれている。この4排水区の中で最も早くから整備が行われてきた大津、膳所処理区は一部が合流式下水道で整備されており、雨天時における琵琶湖への越流水質の調査が急がれている。

一方、放流先である琵琶湖は、近畿圏の重要な水源地であるとともに、大津市における重要な水辺環境の形成に寄与しており、湖水の水質向上が重要な課題となっている。

このような状況の中で本調査は、既設下水道施設、維持管理及び越流水質の調査を行い、問題点を抽出し、その改善策を提案する。また、新たな下水道システムの提案により、雨天時における琵琶湖への汚濁負荷の低減を目指すことを目的とする。

(結果)

平成8年度調査は主に既設下水道の整備状況（施設面・維持管理面）を中心に調査を行い、雨天時における放流水質の向上にむけた既設下水道の改善のための問題点を抽出、対応策の提案を行った。調査項目は以下のとおりである。

1. 既設下水道施設の現況把握
2. 既設下水道施設からの雨天時における放流水質・水質の把握
3. 雨天時放流水質の目標設定
4. 問題点の抽出
5. 対応策の提案

大津市公共下水道の概要

計画処理区域 1,471ha
 計画処理人口 108,700人
 処理施設 大津浄化センター

大津市からの受託研究

研究担当者：前田 正博、鈴木 茂、本 靖夫、城 崇夫、久保田 勝一

キーワード

合流改善